

谷戸の風

歩くこと

山内 静夫

思えば四年前、脳梗塞で倒れてから、私は唯一の「一念で過してき」たように思う。百目を越す入院生活中



木版画 藤本 康

割にはよくがんばると先生に褒められた。旧制中学の頃の部活で結構鍛えられたせいもあるが耐えることには馴れていた。

本人の気持ち、心掛け次第ということである。長生きしたいというより、生きていく間は健康でいいたいと思うのが本音だ。幸い、狭いながらも持

萩の老人クラブが来鎌

みらいふる鎌倉と交流

退院後は六地蔵の「リハビリテーション」の先生がきつききりで歩く練習をさせられた。かなりきつい先生で首をあげずうな時もあったが、歳の

鎌倉の姉妹都市・萩市・吉田松陰が萩出身であるから老人クラブ連合会から松陰来訪

が、私の年齢ではなるべく閉な時間を使って家の周囲を歩いたりしてはいるが、時間と共に足腰の筋肉が弱まって行く。若い友人たちが手を貸してくれるといひ甘えて車椅子を使ったりと、有難いのだが、益々横着になつてしまふ。要するに



の地・鎌倉市二階堂の瑞泉寺跡跡の横に「萩小町」中庭に深草の少将の高さ50センチほどのツバキの苗が植えられた。ツバキは萩の市花で、萩には約10種のヤブツバキの群生林がある。植樹の後、床の間に松陰の筆跡が飾られた客室で大下一真住職から茶の接待をうけ、松陰が訪ねた松陰の伯父で同寺25世住職を務めた竹院和尚の詩などの話を聞いた。

これまで鎌倉の老人クラブが2回、萩を交流訪問している。図書館の運営に役立て

鎌倉の図書館を訪問

ミヤンマーから高校生ら14人

をぶらりと歩いて、おでん屋ののれんをくぐって安酒一杯呑めるような歩きが出来るようになったというのが、姓添なみのセコイ願いである。



一行は、市の図書館の蔵書が全体で約62万点あること、市民の約45%が図書館カードを持っていることなどを聞き、近代史料室や地下書庫を見学。図書館ともども「鎌倉」会員と交流した。

率直な喜びが出ていて臨場感がある。水平線に霞む水無月江の島の灯台白く屹立をなす

鎌倉朝日歌壇

香山 静子 選

靴紐を真紅に替えたそれだけで歩幅大きく弾んで歩く
率直な喜びが出ていて臨場感がある。
水平線に霞む水無月江の島の灯台白く屹立をなす
七里方浜 及川 泰子
的確な描写による叙景歌。「屹立をなす」が効果的。
友からの手紙開けば骨太の文字が「大丈夫、生きよ」と
語る。
前後の事情はわからないが、胸にひびく作品。
三歩あとに見る、買う、食べる一人旅者がリードの「大
人の休日」
岡本 鳴海 紀政
仲睦まじい御夫婦の様子が見え、ユーモアもある。
えぐられて無惨な藤の老木に命重たく紫の房
藤沢市 青木寿美子
うぐいすの鳴く声まねる翁ありかなわぬこと知りつつ
もなお
横浜市 横田千津子
師と吾とわかるがわるじいアノ弾々老人ホームの静かな真
材木座 有野裕美子
山里の夏の使者なる山空木の薄紅色に切り明るむ
城廻 塩田 文字
食卓を拭いた布巾に目をやれば今日この頃の食べこぼし
なし
長谷 小室 雪
雨の日に色仕上げく夏木立広町緑地の雨後の薫風
腰越 近藤 源司

あ、おれは生まれてこなければよかった！
と叫び、「ファウスト」第一部は終幕に向かうのである。罪を自覚しながら嘆きの歌を歌うだけではない。ファウストは自らに連れ出そうとするゆだねることに、ファウストにより高いものへの精神的な憧れ(第二部では干拓を行う)に目覚めさせ、第二部の終わりではファウストの魂を救う者となる。

鎌倉中央RC30周年記念
附中生が合唱を奉納
鎌倉中央ロータリー
クラブ(藤井浩一会長)設
立30周年を祝う記念例会
が5月23日、鶴岡八幡宮
で行われ、舞殿で横浜國
立大学附属鎌倉中学校合
唱団が合唱を奉納した。ロ
ータリーソング「手と手
つないで」など4曲が披露
され、会員はじめ観光客
からも大きな拍手があつた。
同クラブは、社会奉仕
として少年少女サッカー
大会・野球教室の主催、
菖蒲湯、柚子湯の贈呈、
献血などを行っている。最
近は姉妹クラブ・京都洛
西ロータリークラブの厚
意でカンボジアミッショ
ンにも参加した。記念例
会には来賓や会員ら約90
人が出席。藤井会長は
「30周年に感謝し今後も
奉仕の理想を追求してい
きたい」と挨拶した。

志摩 知子 選
六畳の一間の暮し若葉風
六畳一間でもがお城若葉風が前向き姿勢を表現。
袋小路風の押し出す春風
常盤 片岡 和子
風に乗って聞こえてくる春風。楽しく弾む心である。
結局は植えずじまや余り苗 片瀬海岸 伊東 清
あれこれ考えている内そのままだなつてしまった苗。
ハモニカは昭和の音色麦の秋 鶴沼 一色千穂子
私達世代には何か共鳴できる句。麦の秋の鮮やかさ。
五月晴植木屋親子の高笑ひ 本鶴沼 宗 とし尾
父と子の植木屋さんの木の上での会話か。楽しい句。
立葵下から開き天目指す 葉山町 近藤美知子
立葵をよく描ききつている。いわれてみればこの通り。
更衣柳行李の出さるひし 腰越 松原 薫
音軌は路面電車や夏の朝 腰越 近藤 源司
吹く風は風船の守り唄 玉繩 篠田 祥子
リハビリの歩く道の辺けし花 今泉 小林 翠子
丘といふ丘は蜜柑の花盛り 金沢区 岩澤 正春
共にある日明けは蜜柑 藤沢市 横野あさ子
老松に結まり咲きぬ山の藤 片瀬海岸 川島 俊子
雨止みし海辺の小みち松蔭集 葉山町 近藤 純
家守る船に家奴かな 植木 風見 玲子
足柄の防人の碑の夏日影 材木座 有野 冬花
夫の採りし木杵めて森のこゑ

文学つれづれ

『舞姫』と『ファウスト』

赤羽 根龍夫

森鷗外『舞姫』の太田 豊太郎とエリスが深い仲になったのは二人の意志によるものではなかった。踊り子と交際していることを告げられて豊太郎は解職され、国からも母の死を伝える手紙が届き、同胞からも国からも家からも見離されたことにより、気持が動転したところによって二人は深い関係になった。

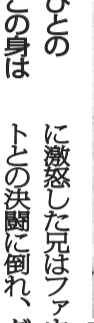
毛の解けてかかると、その美しき、いじらしい姿は、余が悲痛感慨の刺戟によりて常ならずなりたる脳裡を射て、恍惚の間「ここに及びしをいかにせん。」

次はファウストとグレートヒエン、豊太郎とエリスの破局はどうやって訪れたかを見てみよう。グレートヒエンがファウストを想って糸車での糸をつむぎながら歌う有名な場面がある。

わが胸は重い
あの安らぎはもう
決して戻ってこない
その人の見えぬこ
ろは すべて墓
世はおしなべて
にがくくしい
あこがれは
ただ その
人を追う
思いのまま
に
くちづけを
たごそのひとの
口づけに この身は
消えて失せるとも
こころ歌う時、グレートヒエンは愛は孤独な決断であり、口づけも自らの意志で行うことを知っている。しかし同時に愛は

あ、おれは生まれてこなければよかった！
と叫び、「ファウスト」第一部は終幕に向かうのである。罪を自覚しながら嘆きの歌を歌うだけではない。ファウストは自らに連れ出そうとするゆだねることに、ファウストにより高いものへの精神的な憧れ(第二部では干拓を行う)に目覚めさせ、第二部の終わりではファウストの魂を救う者となる。

あ、おれは生まれてこなければよかった！
と叫び、「ファウスト」第一部は終幕に向かうのである。罪を自覚しながら嘆きの歌を歌うだけではない。ファウストは自らに連れ出そうとするゆだねることに、ファウストにより高いものへの精神的な憧れ(第二部では干拓を行う)に目覚めさせ、第二部の終わりではファウストの魂を救う者となる。



新潮社「新妻」の隠し妻の肖像

いまわが教習を憐れみ、また別離を悲しみて伏し沈みたる面に、髪

わが胸は重い
あの安らぎはもう
決して戻ってこない
その人の見えぬこ
ろは すべて墓
世はおしなべて
にがくくしい
あこがれは
ただ その
人を追う
思いのまま
に
くちづけを
たごそのひとの
口づけに この身は
消えて失せるとも
こころ歌う時、グレートヒエンは愛は孤独な決断であり、口づけも自らの意志で行うことを知っている。しかし同時に愛は

あ、おれは生まれてこなければよかった！
と叫び、「ファウスト」第一部は終幕に向かうのである。罪を自覚しながら嘆きの歌を歌うだけではない。ファウストは自らに連れ出そうとするゆだねることに、ファウストにより高いものへの精神的な憧れ(第二部では干拓を行う)に目覚めさせ、第二部の終わりではファウストの魂を救う者となる。

あ、おれは生まれてこなければよかった！
と叫び、「ファウスト」第一部は終幕に向かうのである。罪を自覚しながら嘆きの歌を歌うだけではない。ファウストは自らに連れ出そうとするゆだねることに、ファウストにより高いものへの精神的な憧れ(第二部では干拓を行う)に目覚めさせ、第二部の終わりではファウストの魂を救う者となる。

あ、おれは生まれてこなければよかった！
と叫び、「ファウスト」第一部は終幕に向かうのである。罪を自覚しながら嘆きの歌を歌うだけではない。ファウストは自らに連れ出そうとするゆだねることに、ファウストにより高いものへの精神的な憧れ(第二部では干拓を行う)に目覚めさせ、第二部の終わりではファウストの魂を救う者となる。

あ、おれは生まれてこなければよかった！
と叫び、「ファウスト」第一部は終幕に向かうのである。罪を自覚しながら嘆きの歌を歌うだけではない。ファウストは自らに連れ出そうとするゆだねることに、ファウストにより高いものへの精神的な憧れ(第二部では干拓を行う)に目覚めさせ、第二部の終わりではファウストの魂を救う者となる。